

# 第75回 人権週間 12月4日~10日

人権週間には、公民館ロビーに庄小学校・庄中学校の児童・生徒が描いた人権ポスター(R5倉敷市人権ポスター展入選作品)を展示しました。来館された多くの方に子どもたちのすばらしい作品を見ていただくとともに、人権の大切さを訴えました。



小2 アイ キコ アズルさん



小4 網島 心海さん

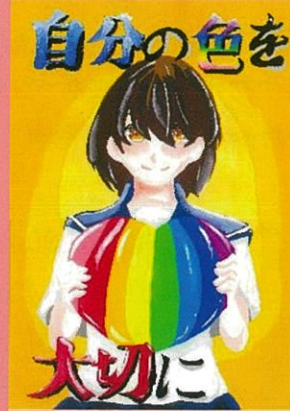


小6 岩崎 倅捺さん

## 優秀賞

中2 平尾 紀佳さん

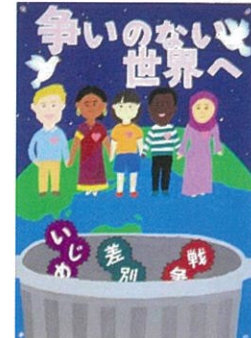
※優秀賞に選ばれた平尾さんの作品は、倉敷市立美術館に展示されました。



中3 徳永 実桜里さん



小6 犬飼 珠果さん



中2 後藤 花音さん



中3 赤木 亜衣菜さん

# 心さわやか庄

第61号

発行  
令和6年3月1日  
庄中学校区  
人権学習推進委員会  
事務局  
倉敷市庄公民館  
倉敷市上東736-1  
TEL 462-5151



# 第10回 人権フェスタ庄を開催しました!



詳しくは中面をご覧ください▶▶▶

## 庄公民館人権教育講演会

# 「江戸落語を愉しもう!」

講師:アマチュア落語家  
笑皆亭 口口 氏  
端唄三味線  
藤本 刃七 氏



10月7日(土)、アマチュア落語家の笑皆亭 口口先生と端唄三味線の藤本 刃七先生をお迎えし、人権教育講演会を開催しました。笑皆亭 口口先生は、日本大学芸術学部へ進み、落語研究会へ所属。東京でお勤めをされた後、帰省し、落語道楽を再開。現在は、岡山おもしろ会会の副会長として活躍されています。

演目「そば清」、「お見立て」の噺をお聴きし、話術や顔の表情に引き込まれ、江戸落語を愉しみました。また、庄地区に伝わる地蔵の民話もお話しくださいました。端唄三味線では、初めて聴かれる方も多く、素敵な音色と歌声に、とても貴重な体験をさせていただきました。

講演の最後には、「落語は、人と人が会わなければ成り立たない芸。向かい合って初めて成り立つ芸」とおっしゃられていて、人と人の関わり方についてもお話しくださいました。外出しなくても生きていける、スマートフォンがあれば生きていける、そんな時代かもしれませんが、人と人の繋がりがや会話の大切さについて、改めて考える機会となりました。

参加者からは、「人と人の交わりが少なくなった中で、落語の大切さもよくわかりました。」「本格的な江戸落語や端唄三味線を拝聴することが少ないだけに、とても貴重な至福のひとときでした。」「現代人はスマホがなければ生活をすげうに感じますが、人と人の交わりも必要ですよ。」などの感想が寄せられました。



## 「第10回 人権フェスタ庄」を開催



10月29日(日)、4年ぶりに「第10回人権フェスタ庄」を開催しました。このイベントは、『つなげようみんなの心 広げよう思いやり』をテーマに庄中学校区人権学習推進委員会が取り組んでいる事業で、子どもたちの健全育成と福祉施設をはじめ障がいのある方への理解に重点を置いた「ふれあい・交流活動」です。当日は、庄地域の子供たちによるステージ発表や展示、福祉施設や各種団体の方々によるバザーや啓発活動などが行われ、多くの方にご来館いただきました。

大会議室で行われたステージ発表では、庄地域の保・こ・小・中・高の子どもたちが披露してくださり、会場からは温かい拍手が送られました。



ステージ発表の様子

そして、今回も福祉施設の利用者の方々、バザーでの接客をはじめ似顔絵作成など社会参加に向けて意欲的に取り組んでいる姿を見せてくださいました。



バザーの様子



小物作りコーナーの様子



人権ポスター・標語の展示

今年は、ステージ発表の司会・進行役をノートルダム清心女子高校の1年生3名が担ってくださいました。さらに、ボランティアとして庄中学校から13名、ノートルダム清心女子高校から2名の計15名の生徒が、福祉施設のバザーや推進委員の仕事を手伝ってくださいました。そのため、地域の方々に学区の子どもたちの健やかな成長を紹介する「人権フェスタ庄」事業が一層充実したものとなりました。また、障がいのある方々と地域の方々との交流が進み、障がい者福祉への理解を深めることができました。

人権フェスタ庄の最後には景品が当たるスタンプラリー抽選会が行われ、会場は大いに盛り上がりました。景品のご協力をいただきました各施設の方々、ありがとうございました。

今回も、庄地域の学校園や福祉施設、各種団体の方々のご協力のもと、盛況のうちに幕を閉じました。今後も、個々の人権意識が高まり、地域の皆様の人権尊重の雰囲気醸成されるようなイベントとなるように工夫していきたいと思ひます。

## 研修視察

陸上自衛隊善通寺駐屯地資料館



9月9日(土)、推進委員及び関係団体の皆様、合わせて20名で香川県善通寺市の陸上自衛隊善通寺駐屯地資料館に研修視察に行きました。

善通寺駐屯地資料館は、明治31年10月、旧陸軍第11師団が四国全域を管区として編成された際、師団司令部として建てられたもので、善通寺駐屯地では通称「乃木館」と呼ばれ、現在は、陸上自衛隊第14音楽隊が1階を使用し、2階が資料館になっており、日露戦争に関する貴重な資料や初代師団長であった乃木希典(のぎまろすけ)ゆかりの物が展示されています。

乃木希典は、明治31年10月～明治34年5月まで勤務され、その後、昭和20年の終戦まで25代にわたり歴代師団長が勤務されました。



日露戦争(1904～1905)では、中国の旅順においてロシア軍との激しい戦いが繰り広げられました。この時の日本軍司令官が乃木希典でした。日本軍は、ロシア軍の強大な要塞に攻めより、突き崩すことに成功しました。しかし、その戦いで乃木は、二人の息子を含め多くの部下を失うこととなったのです。一方、敗れたロシア軍を率いていたステッセル将軍は、日露戦争敗北の責任をとられ、ロシア皇帝より銃殺刑を宣告されました。しかし、乃木の働きかけにより、ステッセル将軍は死刑を免れ、シベリア流刑に罰が減ぜられたそうです。さらに、残されたステッセルの家族のために、乃木自身がなくなるまで生活費を送り続けていたということです。敵(かたき)ともいえる相手に対してとった思いやりは「弱い者いじめや卑怯なことはしない」、「敗者をいたわる」といった武士道精神として語り継がれているのです。

今回の研修では、当時の時代背景や史実を顧みること、人権と平和について考えることができ、また、自衛官の方に詳しく説明していただき、とても有意義な研修となりました。



## 人権の花いっぱい運動



庄中学校区人権学習推進委員会では、毎年3回、「人権の花いっぱい運動」として、庄公民館と庄東分館の花壇に花を植えています。10月27日(金)にはパンジー200株を植えました。毎回、推進委員や各種団体、福祉施設のみならずにご協力いただいで実施しており、交流の場となっています。庄公民館にお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

